

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「GSアメリカン・ストラテジー 毎月決算コース」は、米国の株式および債券、REITやMLP等、幅広い資産へ分散投資することにより、相対的に高水準の利回りと値上がり益の獲得を目指して運用を行ってまいりましたが、2016年3月18日に償還いたしました。ここに謹んで運用経過と償還内容をご報告申し上げますとともに、受益者の皆様のご愛顧に対しまして、厚く御礼申し上げます。

償還日(2016年3月18日)		第22期～第26期	
償還価額	9,730.47円	騰落率	-10.30%
純資産総額	125百万円	分配金合計	90円

(注) 騰落率は収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

本ファンドは、約款において運用報告書(全体版)を電子交付することが定められております。償還運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

〈閲覧方法〉

右記URLにアクセス⇒「償還ファンド運用報告書一覧」より本ファンドの「運用報告書(全体版)」を選択



交付償還運用報告書

GSアメリカン・ストラテジー 毎月決算コース

追加型投信／海外／資産複合

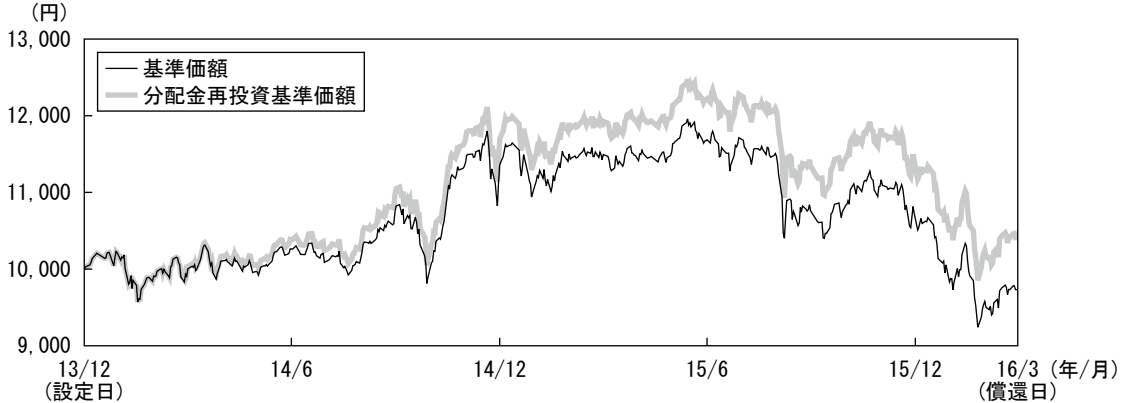
第22期(決算日2015年12月14日)
第23期(決算日2016年1月14日)
第24期(決算日2016年2月15日)
第25期(決算日2016年3月14日)
第26期(信託終了日2016年3月18日)

作成対象期間: 2015年11月17日～2016年3月18日

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

〒106-6147 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー
お問合せ先: 03-6437-6000(代表)
受付時間: 営業日の午前9時～午後5時 | www.gsam.co.jp

設定以来の基準価額等の推移について（2013年12月19日～2016年3月18日）



- （注1）本ファンドの値動きと比較する適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定していません（以下同じ）。
- （注2）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- （注3）実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。
- （注4）分配金再投資基準価額は、設定日（2013年12月19日）の基準価額を起点として指数化しています。

前作成期までの運用状況（2013年12月19日～2015年11月16日）

【第1期～第3期】（2013年12月19日～2014年5月14日 第3期末基準価額：10,078円 作成期中にお支払いした分配金：90円）

本ファンドは期を通じて、ケイマン籍外国投資信託（米ドル建て）ゴールドマン・サックス（ケイマン諸島）ユニット・トラスト-ゴールドマン・サックス米国インカム・バランス・ファンド（以下、ゴールドマン・サックス米国インカム・バランス・ファンド）を高位に組み入れ運用しました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、1.69%の上昇となりました。株式ポートフォリオ*¹および債券ポートフォリオ*²が上昇したことなどが基準価額の上昇要因となった一方、米ドルが対円で下落したことや分配金をお支払いしたことなどが基準価額の下落要因となりました。

【第4期～第9期】（2014年5月15日～2014年11月14日 第9期末基準価額：11,297円 作成期中にお支払いした分配金：180円）

本ファンドは期を通じて、ゴールドマン・サックス米国インカム・バランス・ファンドを高位に組み入れ運用しました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、14.05%の上昇となりました。株式ポートフォリオが上昇したことや米ドルが対円で上昇したことなどが基準価額の上昇要因となった一方、債券ポートフォリオが下落したことや分配金をお支払いしたことなどが基準価額の下落要因となりました。

【第10期～第15期】（2014年11月15日～2015年5月14日 第15期末基準価額：11,392円 作成期中にお支払いした分配金：180円）

本ファンドは期を通じて、ゴールドマン・サックス米国インカム・バランス・ファンドを高位に組み入れ運用しました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、2.45%の上昇となりました。株式ポートフォリオおよび債券ポートフォリオが上昇したことなどが基準価額の上昇要因となった一方、分配金をお支払いしたことなどが基準価額の下落要因となりました。

【第16期～第21期】（2015年5月15日～2015年11月16日 第21期末基準価額：10,946円 作成期中にお支払いした分配金：180円）

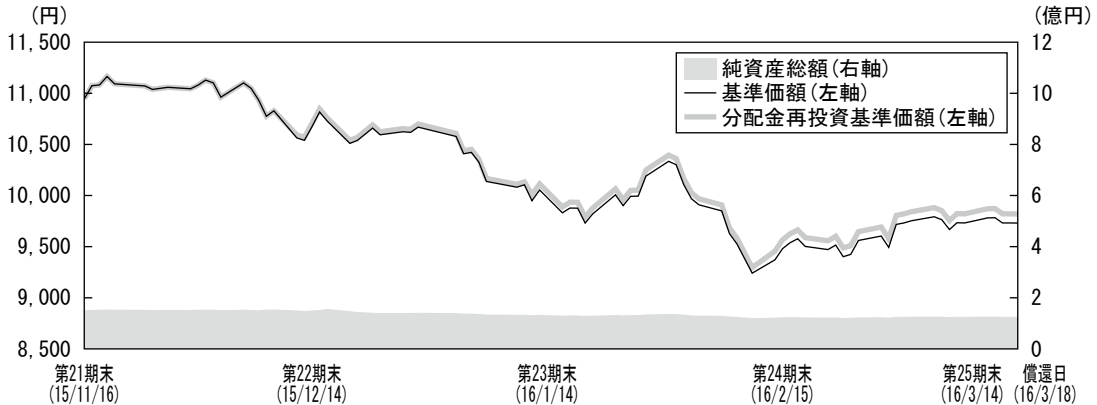
本ファンドは期を通じて、ゴールドマン・サックス米国インカム・バランス・ファンドを高位に組み入れ運用しました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、2.36%の下落となりました。米ドルが対円で上昇したことなどが基準価額の上昇要因となった一方、株式ポートフォリオおよび債券ポートフォリオが下落したことや分配金をお支払いしたことなどが基準価額の下落要因となりました。

*1 株式ポートフォリオとは、株式、リート、MLP等、ファンダメンタル株式運用グループが主に運用を担当するポートフォリオを指します。

*2 債券ポートフォリオとは、社債（投資適格社債およびハイ・イールド社債）、バンクローン、転換社債等、グローバル債券・通貨運用グループが主に運用を担当するポートフォリオを指します。

運用経過

■ 基準価額等の推移について（2015年11月17日～2016年3月18日）



第22期首：10,946円

償還日：9,730円47銭

（当作成期中にお支払いした分配金：90円）

騰落率：－10.30%（分配金再投資ベース）

（注1）本ファンドの値動きと比較する適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定していません。

（注2）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注3）実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

（注4）分配金再投資基準価額は、当作成期（以下、「当期」といいます。）の期首の基準価額を起点として指数化しています。

■ 基準価額の主な変動要因

本ファンドの基準価額は、期首の10,946円から1,215円53銭下落し、償還日には9,730円47銭となりました。

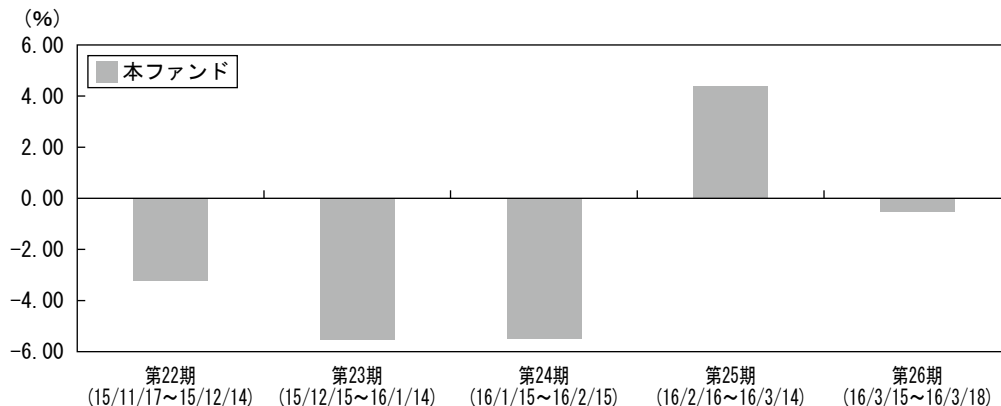
上昇要因

組入れファンドを通じて投資している債券の利息収入や株式の配当収入などが、基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

債券ポートフォリオおよび株式ポートフォリオが下落したことや米ドルが対円で下落したことなどが基準価額の下落要因となりました。また、分配金をお支払いしたことも基準価額の下落要因となりました。

■ 当期の基準価額の騰落率



(注) 基準価額の騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

当期の本ファンドのパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、-10.30%となりました。

■ 組入れファンドの当期中の騰落率（分配金再投資、円換算ベース）

ファンド名	騰落率
ゴールドマン・サックス米国インカム・バランス・ファンド	-9.46%
ゴールドマン・サックスUS\$リキッド・リザーブズ・ファンド*	-6.96%

(注) 純資産価格の騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

* 正式名称は「アイルランド籍外国投資証券（米ドル建て）ゴールドマン・サックス・ファンズ・ピーエルシー-ゴールドマン・サックスUS\$リキッド・リザーブズ・ファンド」です。

1 万口当たりの費用明細

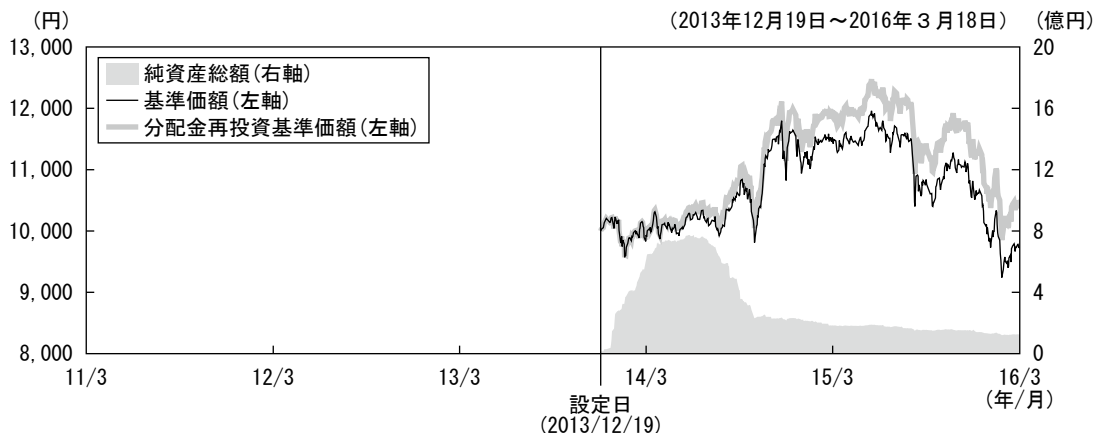
項目	第22期～第26期		項目の概要
	2015年11月17日～2016年3月18日		
	金額	比率	
信託報酬 (投信会社)	35円 (2)	0.336% (0.018)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務等の対価 ファンドの財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(販売会社)	(32)	(0.309)	
(受託会社)	(1)	(0.009)	
その他費用 (保管費用)	20 (18)	0.190 (0.173)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用 法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用、郵送費用、公告費用、格付費用、証拠金利息の調整金額、支払外国税等
(その他)	(2)	(0.017)	
合計	55	0.526	
期中の平均基準価額は10,376円です。			

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。但し、各項目の費用は、本ファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)が支払った費用を含みません。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

最近5年間の基準価額等の推移について



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

(注3) 分配金再投資基準価額は、設定日(2013年12月19日)の基準価額を起点として指数化しています。

最近5年間の年間騰落率

	2013/12/19 設定日	2014/5/14 決算日	2015/5/14 決算日	2016/3/18 償還日
基準価額(分配落)(円)	10,000	10,078	11,392	9,730.47
期間分配金合計(税引前)(円)	—	90	360	270
分配金再投資基準価額騰落率	—	1.69%	16.85%	—12.41%
純資産総額(百万円)	15	738	180	125

■ 投資環境について

<米国株式市場>

米国株式市場は、前期末とほぼ同じ水準で期を終えました。（米ドルベース）。期の序盤は一進一退の推移となりました。期の中盤は、軟調な中国製造業PMI（購買担当者景気指数）などを背景に中国経済の減速懸念が高まり投資家のリスク回避姿勢が強まったことに加え、原油安が加速したことなどを背景に、米国株式市場は下落しました。期の終盤は、OPEC（石油輸出国機構）による減産観測などから原油価格が反発したことに加え、世界各国の中央銀行が緩和的な姿勢を示したことや、2月の雇用統計が市場予想を上回るなど米国経済指標が改善したことなどから上昇し、結局前期末とほぼ同じ水準で期を終えました。

<米国債券市場>

当期は、米国債の利回りは低下（価格は上昇）しました。米国債の利回りは、期の序盤は概ねレンジ圏で推移しました。期の中盤は、原油価格の下落などを受けてインフレ期待が後退したことや、中国経済の減速懸念などを背景に世界の株式市場が下落し、投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどから利回りは低下しました。期の終盤は、原油価格が反発したことに加えて、2月のISM（米供給管理協会）製造業景況指数をはじめとする米国経済指標が市場予想を上回った結果、投資家心理が改善し利回りは上昇しましたが、結局前期末を下回る水準で期を終えました。

米国ハイ・イールド社債市場は、期初から2月上旬までは、中国経済の先行き不透明感が高まったことに加えて、原油をはじめとする商品価格が下落したことなどを背景に、投資家のリスク回避姿勢が強まった結果、スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は概ね拡大傾向で推移しました。2月中旬以降は、原油価格が反発したことや、米国経済指標が市場予想を上回ったことなどをを受けて、投資家心理が改善し、スプレッドは縮小したものの、期を通じては拡大する結果となりました。米国債利回りは低下した一方、スプレッドが拡大したことから、米国ハイ・イールド社債市場は前期末とほぼ同じ水準で期を終えました（米ドルベース）。

<外国為替市場>

外国為替市場では米ドルに対して円高が進みました。

期初から、原油安の加速などから米ドルは円に対して概ね下落基調となりました。1月末に日銀のマイナス金利導入を受けて円に対して上昇する局面もありましたが、中国に端を発した世界経済の減速懸念や、FRB（米連邦準備制度理事会）による年内の利上げペースが緩やかになるとの見方が広がったことなどをを受けて、下落基調が継続し、前期末比で円高米ドル安となる水準で期を終えました。

<短期金融市場>

当期において、1ヵ月物米ドルLIBOR（ロンドン銀行間取引金利）は前期末の0.20%程度から0.43%程度まで上昇して期末を迎えました。

■ ポートフォリオについて

<本ファンド>

本ファンドは、ゴールドマン・サックス米国インカム・バランス・ファンドおよびゴールドマン・サックスUS\$リキッド・リザーブズ・ファンドを主要投資対象とし、ゴールドマン・サックス米国インカム・バランス・ファンドを高位に組入れることにより、米国の株式および債券（ハイ・イールド社債を含みます。）をはじめ、リートやMLPなどの幅広い資産に投資し、信託財産の成長を目指して運用を行いました。2016年3月に入り、繰上げ償還に向けて現金化を行いました。

<ゴールドマン・サックス米国インカム・バランス・ファンド>

【株式ポートフォリオ】

当期の株式ポートフォリオ部分のパフォーマンスは下落する結果となりました。セクター別では、電

気通信サービスや公益事業のポジション、銘柄選択では、AT&T、ファーストエナジー、ウォルマート・ストアーズなどがプラス寄与となりました。一方、セクター別では、金融や資本財・サービスのポジション、銘柄選択では、ボーイング、デボン・エナジー、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニーなどがマイナス寄与となりました。

【債券ポートフォリオ】

当期の債券ポートフォリオ部分のパフォーマンスは下落する結果となりました。格付け別では、B格債のポジションがプラス寄与となった一方、CCC格債のポジションがマイナス寄与となりました。セクター別では、通信や消費（非景気循環型）のポジションなどがプラス寄与となった一方、エネルギーのポジションなどがマイナス寄与となりました。

<ゴールドマン・サックスUS\$リキッド・リザーブズ・ファンド>

主として米ドル建ての短期金融市場証券に分散投資することにより、元本と流動性を確保しつつ、米ドルベースでの最大限の収益を得ることを目標として運用を行いました。

■ベンチマークとの差異について

本ファンドの値動きと比較する適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定していません。

■分配金について

収益分配金（1万口当たり、税引前）については、分配方針および基準価額の水準などを勘案し、第22期から第24期は各30円とし、第25期の分配は行わないこととしました。収益分配金に充てなかった収益については、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行いました。

<分配原資の内訳>

（単位：円・％、1万口当たり・税引前）

項目	第22期	第23期	第24期	第25期	第26期
	2015年11月17日 ～2015年12月14日	2015年12月15日 ～2016年1月14日	2016年1月15日 ～2016年2月15日	2016年2月16日 ～2016年3月14日	2016年3月15日 ～2016年3月18日
当期分配金	30	30	30	—	—
（対基準価額比率）	0.283	0.301	0.319	—	—
当期の収益	30	30	30	—	—
当期の収益以外	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	1,834	1,847	1,856	1,856	—

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

以上のような運用の結果、信託期間終了時における償還価額は、9,730円47銭となりました。

本ファンドは、信託約款の規定に基づき、2016年3月18日をもちまして繰上償還させていただくことになりました。

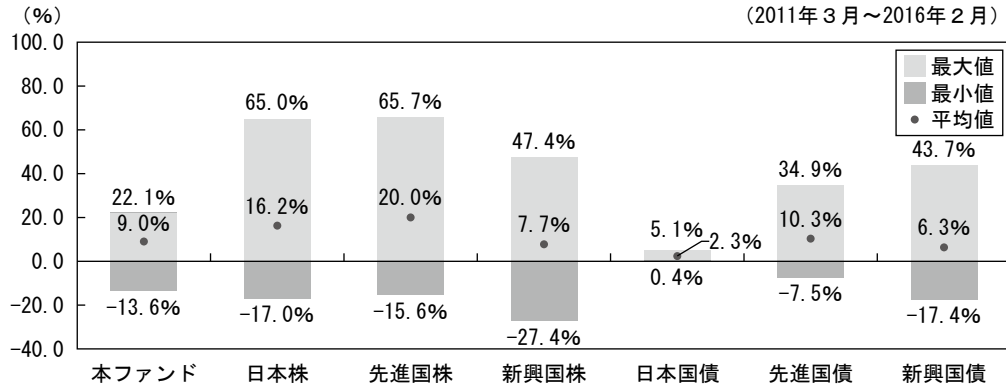
本ファンドを長らく保有頂きました受益者の皆様のご愛顧に感謝いたします。

本ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／資産複合
信託期間	信託期間は2013年12月19日から2016年3月18日（繰上償還日）までです。
運用方針	米国の株式および債券を主要投資対象とし不動産投資信託（REIT）やマスター・リミテッド・パートナーシップ（MLP）等の幅広い資産に分散投資する投資信託証券への投資を通じて、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。各資産への資産配分は、市場環境や市場見通し等に応じ、柔軟に見直します。
主要投資対象	
本ファンド	以下の指定投資信託証券を主要投資対象とします。 ・ケイマン籍外国投資信託 ゴールドマン・サックス（ケイマン諸島）ユニット・トラスト ①ゴールドマン・サックス米国インカム・バランス・ファンド ・アイルランド籍外国投資証券 ゴールドマン・サックス・ファンズ・ピーエルシー ②ゴールドマン・サックスUS\$リキッド・リザーブズ・ファンド
指定投資信託証券①	米国の株式および債券、REIT、MLP等
指定投資信託証券②	主に米ドル建ての短期の市場性を有する金融市場証券
運用方法・組入制限	①外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。 ②投資信託証券への投資は、高位に維持することを基本とします。 ③株式への直接投資は行いません。
分配方針	原則として毎計算期末（毎月14日。休業日の場合は翌営業日。）に収益の分配を行います。投信会社が経費控除後の利子・配当等収益および売買損益（評価損益を含みます。）等の中から基準価額水準、市場動向等を勘案して分配金を決定します。

(参考情報)

■ 本ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



○上記は、2011年3月から2016年2月の5年間における1年騰落率の平均値・最大値・最小値を、本ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。ただし、本ファンドの1年騰落率は、各月末の直近1年間の騰落率であるため、設定日（2013年12月19日）から1年後の2014年12月以降のデータを表示していません。

○各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

- ・海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースまたは円換算ベースの指数を採用しております。
- ・全ての資産クラスが本ファンドの投資対象とは限りません。
- ・本ファンドの騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
- ・騰落率は当期末の直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、本ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

本ファンドのデータ

■ 本ファンドの組入資産の内容（2016年3月18日現在）

○組入れファンド

組入れはございません。

○資産別配分



その他現金等
100.0%

○国別配分



日本
100.0%

○通貨別配分



日本円
100.0%

（注）上記の比率は全て本ファンドの純資産総額に対する割合です。

■ 純資産等

項目	第22期末	第23期末	第24期末	第25期末	償還日
	2015年12月14日	2016年1月14日	2016年2月15日	2016年3月14日	2016年3月18日
純資産総額	150,487,089円	131,674,395円	122,178,970円	126,103,178円	125,449,487円
受益権総口数	142,472,110口	132,348,526口	130,376,656口	128,924,418口	128,924,418口
1万口当たり基準価額	10,563円	9,949円	9,371円	9,781円	9,730円47銭

（注）当作成期首元本額は138,011,965円、当作成期間（第22期～第26期）中において、追加設定元本額は9,976,859円、同解約元本額は19,064,406円です。

■ 組入上位ファンドの概要

組入れはございません。